

# 公益社団法人日本照明家協会

## 2020 年度事業報告

公益社団法人日本照明家協会が創立以来一貫して追究してきた基本理念は、「演出空間・映像領域」の創作活動に対し、芸術性のある照明手法をもって作品の完成度に寄与するにある。この理念実現のため会員・非会員を問わず照明家の資質と技能向上を願い、協会活動に力を入れ今日に至っている。

当年度の事業活動は、定款に定める本会の目的達成のため会員目線に立った協会運営に努め、本会の先達が築き上げた歴史を引き継ぎ、演出空間・映像領域の照明の将来を築くべく公益活動を展開するよう計画されたが、2020年2月ダイヤモンドプリンセス号に始まる新型コロナウイルス感染症拡大は幾多の事業中止を余儀なくされた。

### I 公益目的事業

本会の目的及び事業は定款第4条及び第5条に定められている「公益目的事業」である。以下、定款の順に従って報告する。

#### (事業の内容)

##### 1 照明技術に関する技能の認定

「舞台及びテレビジョン照明のための公開講座」を2021年1月～3月に開催。その内、中央講座は、東京、仙台、旭川、大阪の4力所で開催した。2020年2月新型コロナウイルス感染症拡大のため中止になった旭川地区でも開催出来たことは好評を得た。当日暴風雪のため交通手段がなくなり、東京地区で撮影した映像による講義に差し替えられたものも有ったがなんとか無事に終了した。

地域講座は、仙台、東京、福岡、名古屋、広島、大阪の6力所で開催した。これに併せて、中央講座に「舞台・テレビジョン照明技術者1級試験」、地域講座に「同2級試験」を実施した。

1級技能認定合格者：32名受験の内26名、2級技能認定合格者：76名、協定校2級認定取得者：250名。

「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定制度」は1981年春に制定。その後、時代の要請に応えながら、**技能認定委員会**を中心に制度改革の研究を進めている。

中央講座は文化庁の委託事業として、文化庁・日本照明家協会の共同主催、日本照明家協会制作、全国舞台テレビ照明事業協同組合後援で実施された。

地域講座は各支部長の権限に委ね、支部が実施主体となり支部や地域の事情に合致するように開催。会員・非会員を問わず、照明家全体の照明技術の普及とレベルアップに貢献している。また支部と本部とで連携し、地域の協会活動の活性化の中核をも担っている。技能

認定2級の試験及び認定評価は技能認定委員会が全支部の基準を統一し統括している。

## 2 研修会、講演会、展覧会等の開催

次世代育成委員会傘下、**新人講座部会**担当の「新人講座」は2020年4月4日～6日の3日間、BIZ 新宿多目的ホール・日本大学芸術学部江古田キャンパス及び新宿文化センターホールで開催を計画、新年度に各事業所に採用された新人を主な対象とし80名を越える応募があったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為やむなく中止した。

**技術委員会**では2021年2月26日幕張メッセで開催された「ライブ・エンターテイメント EXPO」のセミナー会場で、照明家協会会員の舞台照明家としての「知識」「技術」「考え方」をもう一度見つめなおし、個々のスキルアップを図る機会を目的に技術セミナーを開催した。

ミニマムな講座で「より幅広く・深く・系統的」に基礎から最先端の技術や考え方に触れ、会員一人一人の知的財産にする。

技術者会議で「舞台」の魅力・奥深さを知ってもらい、照明家の社会的認知を図る機会とする目的に、「舞台・テレビ照明業界の2025年～ハード、ソフト、ワーク、2020年、後への提言-」と題し、パネラー、水野暁夫（テレビ部会）、清水淳（照明デザイナー）、宮川辰雄（ホール管理/人事労務管理者）、高島育夫（メーカー）、腰越礼二（機材販売メーカー）、進行は林之弘（技術委員長）で討論会を行った。受講者は延べ50名であった。来場者アンケートからは、概ね好評であったが、一般・制作関係者なども参加いただけると業界の現状の理解が進むと感じた。詳細は協会誌2021年4月号に掲載報告された。

**安全委員会**では2021年2月26日幕張メッセに於いて開催されたライブ・エンターテイメント EXPO において技術セミナー照明（安全）に講師片野豊氏を派遣「リスクアセスメント」についての講演を行った。参加者は16名と少人数ではあったが好評を得た。詳細は協会誌2021年5月号に掲載報告された。

各支部で安全講習会を計画するも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。

**次世代育成委員会**による全国高等学校演劇協議会への支援活動は2020年7月31日～8月2日高知県立県民文化ホールにて第44回全国高等学校総合文化祭演劇部門の会場で、日本舞台美術家協会・日本舞台音響家協会・日本舞台監督協会と連携して、舞台技術創造講習会を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため演劇大会はWEB開催となり講習会は中止された。

## 3 照明に関する調査研究

技術委員会では、「全国舞台照明技術者会議」を、2021年3月16日～17日香川県高松市サンポートホール高松に於いて、舞台照明に関する調査研究・知識の交換を促進するため、とりわけ日々進歩するテクノロジーについての調査研究と発表を目的に開催を計画した。

《知識編》専門セミナー

1. 「大賞受賞者に聴く」第39回公益社団法人日本照明家協会賞舞台部門

大賞受賞者講演 森 規幸氏

2. 機材展示メーカー各社による機材紹介

3. 照明家が取り組むべきニューノーマル

4. 機材の感染対策

《技術編》実演／第一小ホール LED ホリゾントライトの運用について

《機材展》第二小ホール 国内外メーカー、代理店18社（予定）の機材展示会

以上で計画を立て進めたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為やむなく中止した。

2021年3月11日 北海道北見市芸術文化ホールに於いて「地域舞台照明技術者会議 in 北見」を、会員の舞台照明家としての「知識」「技術」「考え方」をもう一度見つめなおし、個々のスキルアップを図る機会とし、「より幅広く・深く・系統的」に基礎から最先端の技術や考え方に触れ、会員一人一人の知的財産にするなど、「舞台」の魅力・奥深さを知ってもらい、照明家の社会的認知を図る目的で開催した。参加者は20名。

会議の内容は第1部 技術編「近年の劇場・ホール等の設備と使われ方」(LED 機器・一般照明機器) 90分

第2部 知識編「勝柴次朗の仕事」90分

第3部「懇談会」60分

会場の感染対策として、講演者、運営委員のPCR検査、会場入り口での検温、参加者リストの作成、講演者、参加者間にパーテーション設置、会議室定員約半数での開催。

講師1名がリモート参加。地域のホール会館の運営上の問題や管理者の悩みを会長、支部役員と共に考え共有できた。詳しくは協会誌の2021年5月号で報告。

小規模ではあるが、大都市圏での協会セミナーなどに参加できない会員の評価は高い。又、懇談会で地域会員の生の声が支部幹部、本部役員まで直接届く効果は大きい。地域活性化の意味でも支部・本部が連携して継続事業として定着していきたいと考えている。

「第38回全国テレビ照明技術者会議」は、テレビ部会の中に実行委員会を構成し、北海道に於いて計画されたが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

年に1度、テレビ照明関係者が一同に集まり、技術の向上や知識・人材育成など習得する。また、協賛会社による照明機器やコンソールなど新機材の展示を行い未来への発想と照明技術への進歩をテーマに会議を行っている。

これらの事業は、当協会員のみならず、全照明家のスキルアップ、専門家としての資質の向上のため、継続的に実施し、環境保護、エコ対策や新光源への対応など、社会の要望に沿ったテーマで企画しているが中止にせざるを得ない状況は非常に残念であった。

N.G.C.(Next Generation Committee) は、若い世代の照明家の現場レベルの技術研究会として支部ごとに活動している。

国際委員会は2020年10月24～25日、米国ラスベガスにおいて「国際照明機器展LDI2020」でのガイダンス及び情報交換会を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大により日本人の渡航も原則禁止となり、実施されず中止となった。

#### 4 研究の奨励及び業績の表彰

顕彰委員会が担当する第39回日本照明家協会賞授賞式は例年6月の定時総会后開催されてきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により10月28日まで予定を延期して開催された。協会賞大賞（文部科学大臣賞）に舞台部門で森 規幸氏、テレビ部門から牛尾裕一氏が選ばれた。今年度は密集を避けるため文部科学大臣賞・大賞、優秀賞、新人賞のみ会場での授賞とし、特別賞は郵送での授賞となった。

全ての受賞者・作品は受賞の理由を付して協会誌及びホームページで公表し、大賞に関しては協会誌やホームページ等で詳細な解説をして、他の照明家の参考となるようにしている。例年、授賞式後に行われる受賞パーティは中止された

2020年1月1日から12月31日までに上演若しくは放映された作品に対する表彰「第40回日本照明家協会賞」が文化庁の後援で公募され、慎重・厳正に審査され、大賞（文部科学大臣賞）に舞台部門で小沢 淳<sup>あつし</sup>氏、テレビ部門は木村 中哉<sup>なかや</sup>氏が選ばれた。2021年6月16日授賞式を行う予定である。

#### 5 協会誌及び関連図書の刊行

広報委員会は本会の基本理念・目的の浸透、照明家のスキルアップ・クオリティーの向上を目指して、「日本照明家協会誌」を毎月3,000部発行してきたが、幾多の公演が中止となり記事も用意出来ないことから2020年6月号より12月号の7ヶ月が休刊になった。2021年に入り復刊されたが、毎月行われる編集会議はリモート会議で行われ、協会誌台割りや記事の内容など活発に議論が行われている。休刊に伴い「今月の一本」、「梅ちゃん先生の法律相談」、「ニューヨークエッセイ」など連載企画も中止となったが今後徐々に再開するものと期待している。協会誌休刊中に「協会ニュース」として8月と11月の2回発刊し会員に多くの情報や協会活動を報告した。

併せて **WEB 作業部会**は情報の速報性に鑑みてウェブサイトによる公開や毎月のメールマガジンの発行を事業として実施している。協会誌が休刊したため会員に対し重要な情報伝達手段とされた。技術者会議など各種セミナーの報告もホームページと連携する事で動画も配信出来るようになった。

**出版委員会**は会員の資質及び技術向上のために各種の出版を行っている。毎年増刷を続けている「舞台テレビジョン照明 [基礎編]」は 1169 冊発行できた。他に「舞台テレビジョン照明 電源の基礎知識」は 290 冊を発行した。「舞台テレビジョン照明 [知識編] 62 冊、[技能編] 42 冊、「舞台・テレビジョン照明技術者(2 級)技能認定試験問題集 (改訂版)」203 冊、「テンプレートセット」207 組、「電気技術講義テキスト」35 冊、「日本舞踊の照明」6 冊、「舞臺照明の仕事」39 冊、「現代照明の足跡～歴史を創った 7 人の巨匠たち」11 冊、「照明家のための安全な綱元操作の常識」DVD 1 部が発行された。

出版委員会傘下の**手帳編集作業部会**が担当する照明家が日常的に活用する情報を満載した「照明家手帳 2021」も新型コロナウイルス感染症拡大のため、手帳を発行するための広告収入が不足すると判断され休刊とした。会館情報などの随時修正情報はホームページを通じて順次情報は更新されている。

## 6 関連団体等との連絡や提携

新型コロナウイルス感染拡大で照明業界が停滞するなか、会員へは政府や民間が行う各施策の情報収集と広報に努め、関係団体とは文化芸術に携わる団体の行動に参加した。2020 年 5 月に入っても感染状況はおさまらず業界現状の危急を救う活動「緊急総合支援パッケージ」にマスコミや世論の後押しがあり、第二次補正予算が成立し「文化芸術活動の継続支援事業」が示された。本会も照明業界に従事するすべてのフリーランスの方に関連する重要事業と判断して 2020 年 6 月 22 日に**支援対策室**を設けて、統括団体としてこの事業に申請する資格を得るための「事前確認」の作業を行った。申請期間に併せて事前確認を行い 452 件の確認番号を発番した。

この期間を通じて関連する会議に参加し情報収集に努め「文化芸術収益力強化事業」で採択された EPAD 事業の広報活動に支援するなどの活動を行った。今後もフリーランスの照明家への継続的な支援の実現に向けて、演劇緊急支援プロジェクト、「We Need Culture」などの団体と連携して、意見交換会、アンケート調査などへ協力してゆく。

全国舞台テレビ照明事業者協同組合(全照協)、公益社団法人全国公立文化施設協会(公文協)、また公益社団法人日本芸能実演家団体協議会(芸団協)を中心に交流を行ない、様々な情報交換も実施した。

## II 協会組織運営

### 1. 会勢

協会の組織増強は、照明家の社会的地位の確立の一助ともなり、延いては芸術文化の興隆に貢献することに繋がる。会員数は減少傾向にあるが本会の存在意義は公益認定と相まって高まってきている。期首会員数：2,404名、期末会員数：2,302名、4月1日時点。

### 2. 総会、理事会

2020年5月22日コロナ禍の中、書面にて第1回定時理事会が行われ、定時総会の開催及び議案が承認され、2020年6月29日に定時総会が開催された。積極的に委任状と議決権行使を提出して頂き少人数で開催した。2019年度（令和元年度）事業報告の後、2019年度（令和元年度）決算が承認された。その後役員改選が行われた。その後、第1回臨時理事会を書面にて行い会長以下業務執行理事が決まった。

新理事との対面も適わない中、2020年9月15日リモートによる理事懇談会を開催。情報交換を行った。

2021年3月16日に2020年度第2回定時理事会を香川県高松市で予定していたが、新型コロナウイルス感染症が拡大したため、リモート会議に変更して開催、2021年度予算が承認された。

### 3. 業務執行体制

原則として毎月1回の「執行理事会」、隔月で「本部運営会議」を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大した後は、リモート会議を利用し感染症拡大防止に努めた。

業務執行理事及び各委員会代表が参加して、理事会が決めた業務について、情報を交換、共有して執行の具体的な方法を審議し実施した。

事務局が毎月作る月次決算を元に、財務委員会を開催。毎月の「執行理事会」「本部運営会議」に於いて財務委員長による財務報告がなされ、予算執行の進捗状況が適切に確認されている。

### 4. 全国事務局会議

例年、全国事務局会議は定時総会翌日に開催されているが、9月29日リモート会議に変更延期開催された。

全国の支部長・支部事務局長が参加し、会長、副会長、理事など本部役員と本部事務局との意思の疎通を図ると共に諸事案について話し合われた。

### 5. 公益委員会

毎月行われる公益委員会で次の規則が検討された。

2020年5月の第1回書面定時理事会により、新規策定の「日本照明家協会事務処理規程」、「日本照明家協会慶弔規程」及び「日本照明家協会賞運用規程」の改定が承認された。

その後、検討中の「文書管理規程」及び「技能認定関連規程」の改訂は、2021年度理事会の議案として提案できるよう継続して検討を行っている。

## 6. 本部事務局

本部事務局の執務体制は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため在宅勤務と併用し進めてきた。緊急事態宣言時には本部事務局を置く芸能花伝舎も閉館となり、活動を制限されたが、感染者を出す事も無く一年間乗りきれた感である。今後は委員会を中心とする会員主体の協会活動をささえ、更に体制を整えるため一層の研鑽を積む所存である。

以上（2021年5月24日 理事会承認）